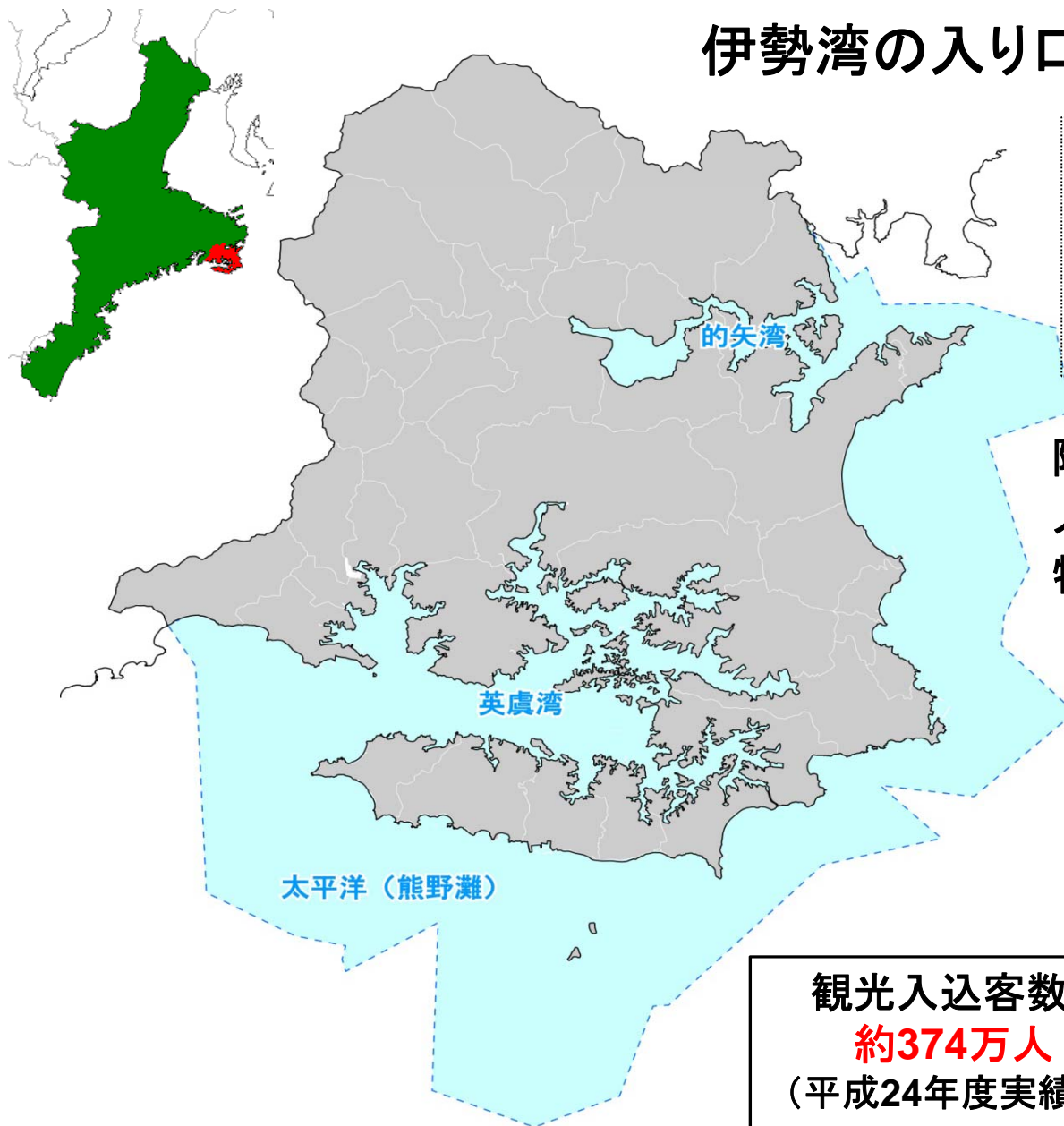


# 地域ごとの取組事例 (三重県志摩市)

---

平成26年3月19日

## 伊勢湾の入り口に突き出した志摩半島の南部



平成16年10月1日

旧志摩郡の5つの町(浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町)が合併して、「志摩市」が誕生

陸域面積：179.73km<sup>2</sup>

人口：約54,694人(平成22年国勢調査)

特徴：

- ・ 陸域の全域と海域の一部が **伊勢志摩国立公園**に指定
- ・ 温暖な気候  
まとや あご
- ・ 的矢湾・英虞湾・太平洋に面する **リアス式の海岸線**となだらかな丘陵
- ・ 「御食つ国(みけつくに)」と呼ばれ、沿岸漁業と風光明媚な景観を活かした観光業が地域経済の基盤

観光入込客数  
**約374万人**  
(平成24年度実績)



志摩市は3つの海(的矢<sup>まとや</sup>湾・英虞<sup>あご</sup>湾・太平洋)に面しており、海洋資源に恵まれている。





# 志摩市における魅力的な海洋観光資源

## 的矢(まとや)湾

3本の2級河川が流入し、豊かな森林の栄養が供給されることから、牡蠣(かき)やおおさの養殖が盛んに行われている。



的矢かき



おおさ(ヒトエグサ)養殖

## 英虞(あご)湾

非常に複雑に入り組んだリアス式の内湾であり、真珠養殖技術の開発が行われた海である。現在ではシーカヤックなどの体験型観光にも利用されている。



アコヤガイ真珠



シーカヤック

## 太平洋

志摩市の太平洋沿岸域では、定置網や刺網、はえ縄、一本釣漁など多彩な漁業が営まれており、四季を通じて多様な魚介類が水揚げされる。また海女漁業は志摩市を代表する伝統漁法である。



伊勢えび



アワビ



あのりふぐ



カツオ



クルマエビ



海女



# 志摩市が目指す「新しい里海のまち・志摩」のイメージ



稼げる里海

学べる里海

遊べる里海

保全の取組

志摩市の「豊かな海」を  
保全・管理しながら利活用し、まちの活性化を図る

## 計画の特徴

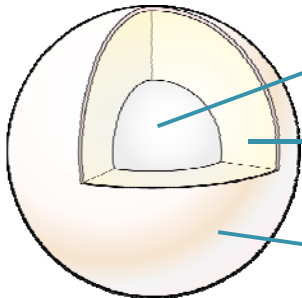
1. 志摩市の自然環境の利用や保全に関わる関係者が連携して取り組みを進めるための計画。
2. 自然環境の保全と地域の活性化を一体的に進めるための計画。
3. 市民や事業者などの連携を重視する計画。
4. 自然環境や社会情勢の変化に応じて継続的に取り組みを進めるための計画。

市民一人ひとりが取り組みに参加し、その恩恵を受ける。

関係者それぞれが連携して取り組み、その恩恵を受ける。



## 取組の基本方針



(1) 「核」となるもの  
『自然の恵み』の保全と管理

(2) 「真珠層」となるもの  
沿岸域資源の持続可能な利活用

(3) 「輝き」を放つもの  
地域の魅力の向上と発信（地域ブランディング）

### 『自然の恵み』の 保全と管理

- ▶ 志摩市の産業・生活の経済的・心理的基盤である自然の恵みや、そこから生まれてきた歴史・文化の保全と管理

### 沿岸域資源の 持続可能な利活用

- ▶ 「稼げる」、「学べる」、「遊べる」を基本とした、自然の恵みの持続的な利活用

### 地域の魅力の 向上と発信

- ▶ 「新しい里海のまち」というイメージの地域外への効果的な発信と志摩市やその生産物のブランド化

「里海創生」をコンセプトに市民や関係者が一丸となって地域の産業振興を図り、農林水産物や観光資源等のブランド化（磨き上げ）を目指す



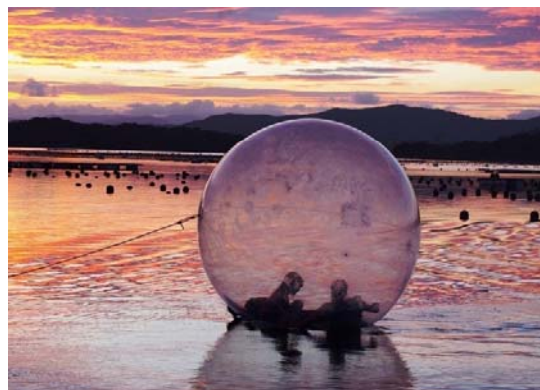
## 自然景観や海の魅力活用

※参加者数は平成24年度実績による。  
※ツーデーウォークの参加者数については、2日間のべ人数。

国立公園に指定された自然景観や海そのものを活かし、湾内、海岸・海浜などをフィールドとしたスポーツイベント・体験型観光を推進。



伊勢志摩 里海トライアスロン  
(5~7月頃) 約230人



ウォーターボールde自然体験  
(通年) 約700人



志摩ロードパーティ  
(4月) 約8,200人



伊勢志摩ツーデーウォーク①  
(5月) 約3,500人



伊勢志摩ツーデーウォーク②  
(5月) 約3,500人



志摩ビーチサッカーFESTA  
(9~11月頃) 約300人

## 地域資源のブランド化

志摩市の豊かな海の幸について、資源管理や品質管理を行いブランド化を図り、その魅力を全国に発信。

※志摩市の水産資源のうち、三重県により「三重ブランド」として認定されている主なもの。



真珠



伊勢えび



的矢かき



あわび



あのりふぐ

○海のオフシーズンである秋冬は、伊勢えび、的矢かき、あのりふぐなどの旬の食材をアピールして、観光客を誘致。



## 学びを目的としたツーリズム推進

※参加者数は平成24年度実績による。  
※課題解決型学習旅行の誘致については、大学やその附属高校等と連携することにより、試行的に実施。

干潟の観察会や魚の調理教室、自然体験などを通して、自然環境の保全と利用について学ぶ教育活動を推進。地域内外における人材の育成を目指す。

○小・中学生向け  
自然とふれあう体験型の  
修学旅行等の誘致

○高校・大学生向け  
自然環境に関する課題  
解決型学習(PBL※)旅行  
等の誘致  
※Project-Based Learning



干潟の観察会 約5,200人



真珠核入れ見学 約60人



漁港・魚市場の見学 約60人



魚の調理教室 約1,300人



自然体験(シーカヤック) 約5,600人

## 学校教育における里海学習の充実

地域の産業や文化と自然環境との関わりについて学習する「里海学習」を導入し、関係機関等と連携した実践的な学習機会を通じて、子どもたちの海に関する理解を深める。

○的矢湾の環境再生を目的にアマモという海草の再生活動をしている漁業者と、地元の中学校が連携。アマモの種の収穫や、種を海に撒く作業を共同で行っている。



○英虞湾に面する立神地区では、真珠の核入れ作業から貝掃除、真珠の取り出し、ブローチへの加工という一連の作業を真珠養殖業者の指導で体験する。小学生は自分で作ったブローチをつけて卒業式に出る。

